

乳がん患者のための補正パッド 通気性良いダブルガーゼ 県立看護大学で手作り講習会



乳房パッドづくり講習会を全国で行う「ララフリー(LaLaFree)」の坂田良子さん。

「講習会で製作するパッドは通気性を良くするため、ダブルガーゼ生地を使い、樹脂ビーズや綿を入れる。『市販のシリコン製パッドは高価なものも多く、夏場に蒸れてあせもができてしまうケースもあるという。ダブルガーゼなので汗を吸ってくれますし、簡単に洗濯出来てすぐに乾きます。脇の所も自然にふくらみが出るようになりますし、樹脂ビーズである程度重みもありますから、下着の中で安定するんですよ』と話す。

「全て手縫い。なみ縫いが出来たらだけでも簡単に作れ、1度作ったら3・4年は使える。また1度覚えたら次は簡単に作れるという。何よりも、同じ病気で悩む仲間と情報交換や悩み相談ができる。参加者は『肌さわりも良いし、自分で作ったもので愛着も沸きます』と話した。

三重県立看護大学の
大川明子教授は11月1日(火)、津市夢が丘の同大
学研究棟で、乳がん患者の手術後に胸部に使う補正パッドを手作りする講習会「Rehana Care(リマンマカフェ)」を開いた。

講師は乳房の全摘手術を受けた経験を持ち、同じ経験をした女性のために役に立つ、快適な商品の販売や

企画した大川教授は「乳がん手術後のボディイメージの変化は、患者の心と与える影響がとても大きい。当事者でないと気づかない。パッド作りながら悩み相談や辛いことなども話せるという環境は良いと思います。こうした会を今後も開きたい」と話した。